憧れ、大泉洋と初共演

初医師役に挑戦 松村北斗

SixTONES

映画「ディア・ファミリー」6・14公開

家族役を演じる（上段左から）大泉洋、菅野美穂、（下段左から）川栄李奈、福本莉子、新井美羽

アイドルグループ「SixTONES」の松村北斗（28）が、俳優大泉洋（50）主演の映画「ディア・ファミリー」（月川翔監督、6月14日公開）に出演し、初の医師役に挑戦することが28日、分かった。病気の娘を救おうと奮闘する主人公を支える重要なキャラクターとして登場。グループ活動だけでなく、近年は俳優として話題作への出演が相次ぐ松村。共演が夢だったという大泉との初タッグで、役者としてさらに進化した姿を見せてくれそうだ。

月川監督も絶賛

世界で17万人の命を救ってきた医療器具「IABP（大動脈内バルーンパンピング）バルーンカテーテル」の誕生秘話を映画化。生まれつき心臓病疾患を持っており「余命10年」と宣告された娘・佳美（福本莉子）を救うため、医療の知識も経験もないまま自ら人工心臓を作ろうと挑んだ町工場の経営者・坪井宣政（大泉）と家族の感動物語。

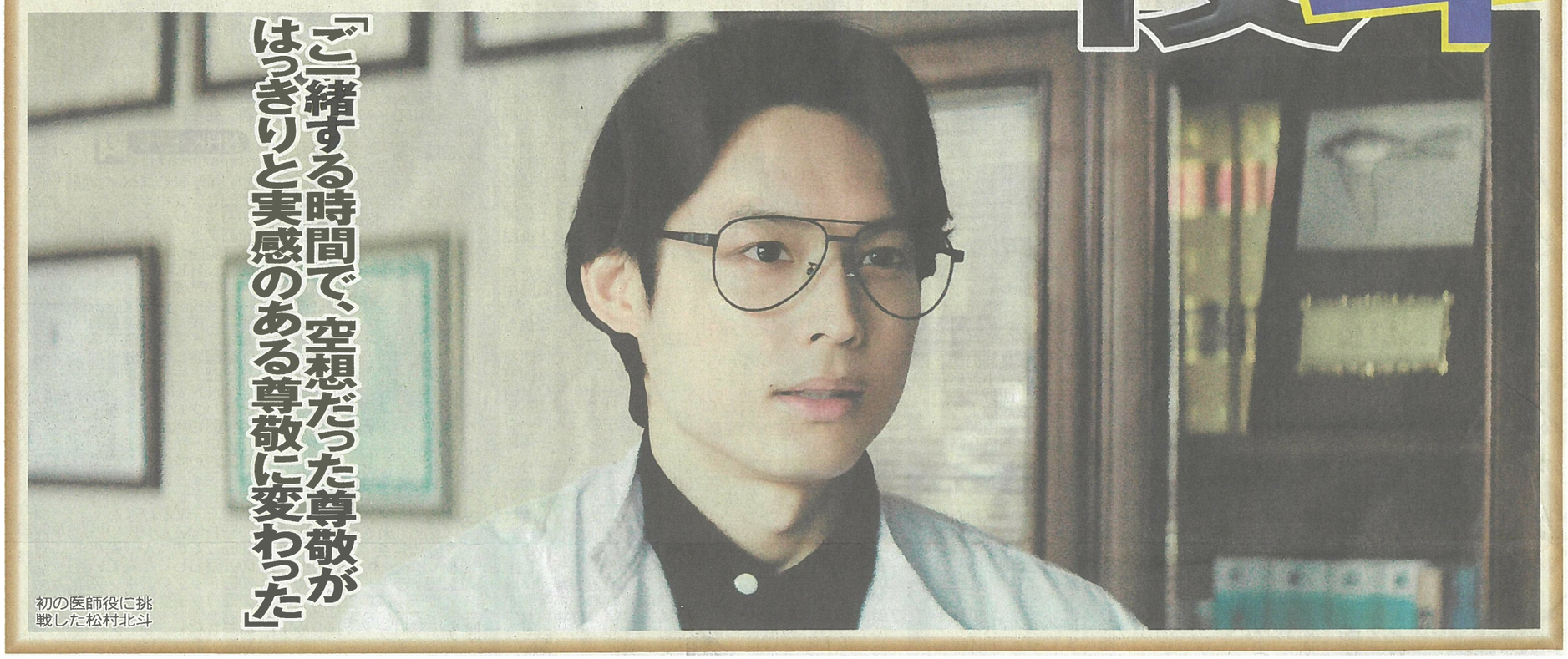
松村が演じるのは大学の心臓研究所の研究医・富岡進。人工心臓を学び始めた宣政が研究所を訪れ富岡と出会う。富岡は寡黙な性格で、人工心臓を作るという荒唐無稽な挑戦を冷めた目で見ていたが、宣政の娘への愛情と絶対に諦めない強い心を目の当たりにし、陰ながら研究を手伝う。

主人公との距離感や衝動的に込み上げる熱い思いの表出など、実在の医師をモデルにした難役だったが、月川監督は「繊細にキャラクターに息吹を吹き込んでくださいました」と絶賛。松村は「この映画は実際にあった出来事を題材にしていることもあり、その説得力はすさまじいものでした」と言い、さらに「いくつもの優しさと愛情が描かれているこの作品の中で、僕の演じた富岡進はその難しさに心を苦しめ、それでも答えを導き出す強さを持った憧れの人物です」と役柄を紹介。

大泉がメンバーの演劇ユニット「TEAM NACS」の筋金入りのファンであることを公言している松村。憧れの大泉との初共演で夢がかない「現場でご一緒する時間で、空想だった尊敬がはっきりと実感のある尊敬に変わりました。そんな座長がいるチームが作った作品は切実で愛情深いものです」と喜んだ。

演技の幅広げる

人気グループの一員としてライブでは華やかなパフォーマンスでファンを虜（とりこ）にする一方、撮影現場では「謙虚な居住まいと真摯（しんし）な役との向き合いに、さらに魅了されました」（大瀧亮プロデューサー）と評価も高い。アニメ映画「すずめの戸締まり」（2022年）では声優に初挑戦し、上白石萌音（26）とのW主演映画「夜明けのすべて」（公開中）ではベルリン国際映画祭に招待され、現地で舞台あいさつを行うなど俳優としても精力的に活動する。多彩な才能を見せる松村が今回、初の医師役でさらに演技の幅を広げそうだ。



初の医師役に挑戦した松村北斗

「ご一緒する時間で、空想だった尊敬がはっきりと実感のある尊敬に変わった」

6月14日公開 映画「ディアー」

SixTONESの松村北斗（28）が、大泉洋（50）主演の映画「ディア・ファミリー」（月川翔監督・6月14日公開）で医師役を演じることが28日、分かった。

松村は演劇ユニット・TEAM NACSの大ファンを公言し、大泉が推しメン。憧れの存在との初共演に、「共演は夢の一つでした。現場でご一緒する時間で、空想だった尊敬がはっきりと実感のある尊敬に変わりました」と感慨深げ。「そんな座長がいるチームが作った作品は、切実で愛情深いもの。多くの方に見てほしいと思う作品に、少しでも関われたことをうれしく思います」と喜びをかみ締めた。

同作は、心臓疾患を抱え、余命10年と宣告された娘（福本莉子）を救いたい一心で、経験も知識もない状態から心臓の働きを助ける医療器具であるIABP（大動脈内バルーンパンピング）カテーテルを開発した筒井宣政さんと、その家族を描いた実話を基にした物語。松村は普段は寡黙で他人とは距離を置く性格の医師・富岡進を演じた。

研究医時代に宣政（大泉）と出会い、無謀とも言える挑戦を冷めた目で見ていたが、まな娘への愛情、絶対に諦めない心を目の当たりにし、陰ながら研究を手伝うことになる重要なキャラクター。松村は「いくつもの優しさと愛情が描かれている作品。富岡進はその難しさに心を苦しめ、それでも答えを導き出す強さを持った憧れの人物です」と話した。